



森のなかま

2024年 4月号

NO. 190 (継続335号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【森林技術部会主催】 枝打研修会

日時：2024年1月8日(月) 9:30~15:00

場所：県立21世紀の森 成長の森

参加者：滝澤⑤、野牛⑧、山下⑪、鈴木⑭、水野⑭、相澤⑮、石垣⑮、飛田⑮、永田⑯、内田⑰、小国⑰、
小池⑰、高谷⑰、野口⑰、藤田⑰、三浦⑰、三好⑰、森本⑰、柳沢⑰

講師：大橋⑩、斉藤⑬、岩田⑭、石井⑮、大見⑮

(記 内田 祐子⑰、写真 岩田 典義⑭)

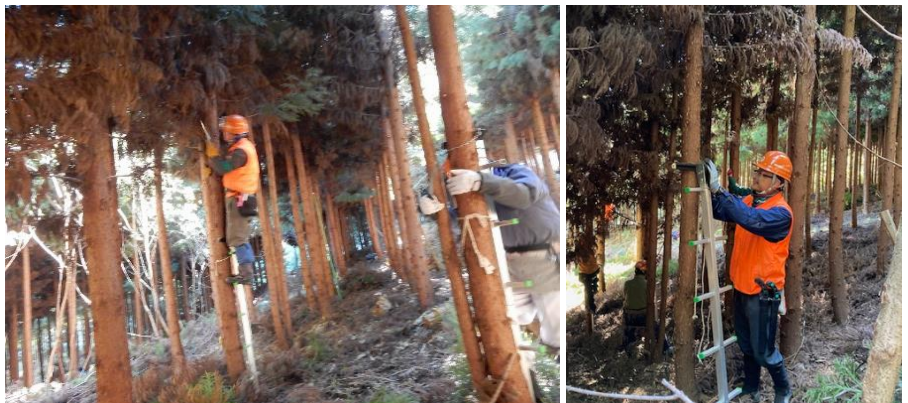
2024年1月8日。森林技術部会による枝打研修会が開催されました。2024年最初の活動となった方も多かったと思います。朝の気温は3度と冷え込みましたが、雲一つない晴天、作業日和です。

21世紀の森駐車場に集合後、準備を整え、予定時間より少し早く研修開始となりました。研修開始の挨拶の後、研修の目的や枝打ちの意義、マニュアルをもとに手順や注意事項等の説明があり、今回の研修ではハシゴや安全带を使用するため、道具についての説明もありました。また「研修エリアが無花粉スギの調査林として厳重管理されているため、正確で丁寧な作業が求められている」と話があり、作業時は丁寧な作業を心掛けていますが、研修を前に気持ちグッと引き締まりました。その後ラジオ体操で体をほぐし、各自ハシゴを持ち研修エリアへ移動しました。



班ごとに、担当エリアの確認、ハシゴや安全带の使用方法や注意点の再確認を行い、作業を開始しました。地際から3mの高さまで枝打ちを行うためハシゴの上部まで上がります。初めのうちは作業に夢中になり、ふと気づくと想像以上に高い位置に居て驚くこともありました。ハシゴを正しく安全に使用すること、枝を落とす際に下の様子を確認すること、足もとや手もとが不安定にならないようにそれぞれの位置を意識すること、無理な姿勢での作業とならないように適宜判断して作業行うこと等々、普段とは違う配慮が必要なことを体感し実感することができました。また安全带を装着しての作業も体験しました。そのほか枝打ち鋸・竹挽き鋸を使用し、枝の状態による使用感や仕上がりの違いを確認しました。そして参加者全員が、1本1本丁寧に作業を行ったことは言うまでもありません。

研修エリア内 331本の枝打ちを行った結果、作業前はうっそうとしていた林内は明るく、見通しも良くなり、達成感も十分に得ることができました。ハシゴや安全带を使用しての枝打ち、種類の違う鋸の切り比べ、学ぶことが多く有意義な研修でした。道具の整備、片付けもしっかり行い、研修会終了となりました。



シリーズ 『やま』の色々

第1回 生物多様性について考えてみます①

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

生物多様性は大事だと誰でも知っていますし、知らないとか価値がないとか言う現代人ではない様な眼さえ向けられる時代です。ですからそれを持続的に保全し管理するように努めなければならない、その意味を実際のものとして理解し実践するようにしないといけないのが現代の常識です。でも、どうしたらいいんだろうという疑問が湧きますが、これがなかなか難物で一概には理解できないし説明も出来ないのが実際だと思います。国連の会議等に多くの賢者が集まり、世界各国の首脳が集まって色々な条約や取り決めを行い、次々と目標を定めてスローガンを提案し決議するのですが、世の中は余り変わらないのですから一般庶民にはなかなか付き合にくいものだと思います。

図1 住宅街道路の大きなユーカリの並木



図2 一般道路のユーカリの並木

そんな現代の昨年、私事ですが、3月から5月にかけてアメリカ西海岸のサンフランシスコ近郊に滞在する機会を得ました。そこで日本にいた時とは違う体験をして、これまた識者の一部には叱られてしまうような考えに襲われました。この紙面に色々な事どもを連載させていただく端緒としてそのことを書いてみます。

体験を簡単に言いますと滞在したサンフランシスコ市の南に隣接するバーリングゲーム(Burlingame)市の並木や公園に沢山のユーカリがあったことです。それも大きなユーカリの木でBlue Gum (図1、図2、図3) というのが殆どでしたがそれ以外にも様々な種のユーカリがみられました (図4)。

このユーカリというのが太さは直径で1 m以上のものが多く2 mを超えるようなものもあって、樹高は50 mを超えるだろうという大木揃いでした。このような大木が整然と区画された住宅地の中の通路や車の行き交う道路(さすがにフリーウェイにはありませんでした)、また子供たちの集まる公園にも普通に見られました

(図5)。街の風景に溶け込んでいるようです。ユーカリなんてこの地には自生していないはずのものなのに何でかなあと思いました。

東京にも自生種でないイチョウ、ユリノキ、プラタナス、フウ、サクラ類など多種のものが多数あるのでそれほど不思議なことではないのですが、圧倒的な量感なので不思議に思いました。

このユーカリの存在がどう生物多様性や自然環境保全と関係するかを、次回で考えてみます。



図4 赤い花のユーカリ

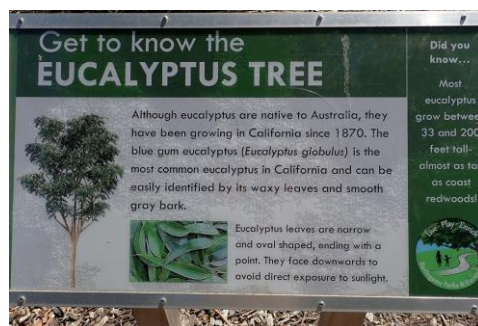


図3 児童公園にあったBlue Gum =Eucalyptus globulusの説明標



図5 児童公園にもあるユーカリの大木

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら先生のアドレス hayachines@yahoo.co.jp にお送りください!

活動短信

今回の掲載はR5年11月25日からR5年12月9日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

4月(卯月)(旧暦3月弥生)の

二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気 : 清明 4/4 穀雨 4/19

清明は命が輝く季節の到来を表します。お釈迦様の生誕は4/8。各地で花まつり(灌仏会)が催されます。

鳥こよみ: 玄鳥至る(つばめきたる)。東南アジアから繁殖のため日本各地に飛来し、人家の軒下などに営巣します。雛への餌やりは一日600回以上になることも!!

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日付: 令和x年x月x日(曜日)できれば時間と天気も

場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

(公財)かながわトラストみどり財団、看護師

例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 県民参加の森林づくり (除伐)

日付: 令和5年11月25日(土) 8:30~13:30 曇り

場所: 秦野市千村(頭高山)

参加者: 59名

財源: 藤本様、豊丸様

看顧: 佃様

スポンサー: 秦野市森林ふれあい課 川上様

千村共有地管理組合 谷様、石井様

神奈川県森林組合連合会 湯浅様

イ: L末原⑮、松本⑪、山下⑪、藤代⑬、水野⑭、

飛田⑮、永田⑯、松浦⑯、内田⑰、藤田⑰、渡邊⑰

今秋は暖かい日が続いていましたが、この日は数日前より「今シーズン一番の寒気到来」との予報。インストラクター11名、寒さ対策を万全に整えて集合しました。

8時より受付開始し、受付順に3台に分乗して現地へ向かいました。バス降車後、集合場所までの徒歩区間にはナラ枯れの木々があり、転倒や落下の危険があることから、すぐにヘルメットを装着し歩き始めました。

オリエンテーションでは、頭高山の八重桜のお話や、今回の作業場所に来春植栽を行うとのお話がありました。

その後、班ごとに道具を装着し作業場所へ向かいました。除伐作業の予定でしたが、一部茅類が多い場所があるため下刈りも行うことになり、一部の班では大鎌を持つての移動となりました。

作業開始後は、皆さん夢中になり汗をかく方も。途中休憩をはさみ水分補給を行いました。

熟練者は手際よく、初めての方は丁寧に作業を行い、来春の植栽に向けてお手伝いをする事ができました。

作業後は、見通しが良くなり近くの山々の紅葉も見渡すことができるようになりました。初めて参加された方は、「皆さんで作業



をすると短時間でこんなに景色が変わるんですね!」と、とても驚かされていました。

昼食時には、地元の方によるちゃんこ鍋、お汁粉の

ふるまいがあり、作業後の疲れた体を温かな汁物で癒やすことができました。また、地元産のみかんや「秦野産青パパイヤ」(じゃんけん大会勝者)もいただきました。

普段より少し長めの昼食時間を過ごし、帰路につきました。

(記 内田 祐子⑰、写真 末原 興一⑮)

◆ 横浜銀行様 (経路散策・枝打ち体験)

日付: 11月25日(土) 8:50~11:50 曇りのち晴れ

場所: 県立21世紀の森

参加者: 20名(うち小人4名)

財源: 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 宮崎様

看顧: 黒田様

イ: L岡村⑯、吉田⑪、鈴木⑭、小林⑯

11月も後半なのに暖かい日が続く中、急に冷え込んだ日となりましたが、参加者全員元気良く予定より早めに現地に到着し活動を開始しました。

横浜銀行様には2018年から森林再生パートナーとしてご支援をいただいています。

今回の活動は、森林の働きを知り林業(枝打ち)の体験等を行うことにより、森林再生活動を深く学ぼうということです。今後の横浜銀行様の森林再生活動をどのように

していくのかいろいろと検討する機会にしたいとのことでした。

まず、細田部長の開会あいさつに続き、A班（展示館にて森林の働きの学習

→枝打ち体験）B班（「森のはなし」（しずくちゃんの紙芝居→金太郎コース散策）の二つの班に分かれそれぞれ活動を行いました。



枝打ち班は、参加者のほとんどが初めての体験ということでしたが、チームワーク良く作業が行われました。当初は写真撮影班（笑い）が多く、作業が予定通り終わるか心配しましたが、小学生の女の子のガンバリとチーム全体の底力で、時間内に予定の枝打ち範囲の作業を終了できました。うっそうと繁った杉林が、「こんなに明るくなった！」「楽しい！」等の感想がありました。

散策班は、しずくちゃんの紙芝居で森の話聞き、その後の資料館にて学習後に散策へ出かけました。小学生以下の参加者の方には、プログラムに21世紀の森のスタンプラリーを組んだことにより、わいわいと元気よく大変好評でした。

全体を通して、こんなに明るく楽しく元気よく参加者の皆さんに活動をいただき、インストラクターとしても大変楽しい一日となりました。

（記・写真 鈴木 淳⑭）

◆ 株式会社日本経済新聞社様 森林ボランティア活動

日 令和5年11月26日（日）10:00～15:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 大人22名、子供7名

県 水源環境保全課 村松様、藤原様

イ L 牧石⑭、西出⑫、岡村⑯、田島⑰、森本⑱

2023年10月1日から森林再生パートナーに加わった株式会社日本経済新聞社の第1回 NIKKEI 森林ボランティア活動をやどりき水源林で実施した。午前は間伐、自然観察、午後はクラフト体験、自然観察を実施した。

【間伐】参加者17名は用具倉庫前に移動し、用具の装着を完了したのち後沢前まで林道を移動。やどりき沢を渡り平成19-9成長の森に移動。間伐場所は傾斜が急なため、インストラクター1名に対し作業員2名～3名が付き2グループの交代制で間伐作業を実施した。



【自然観察】午前はBコー

スで実施。林道に設置されている森は水のふるさとの看板を前に、県内で利用されている水道水は相模川水系、酒匂川水系の水を利用している説明をした。Bコースでは、ムラサキシ



【クラフト体験】コースター作り、カツラの木でサンタクロース作り、クリスマスリース作りを実施した。クラフト体験はクリスマスリース作りが大人気で皆様楽しんで作成されていた。

キブ、カンアオイ、ミヤマシキミの赤い実を見て感激されていた。午後は林道コースで実施。林道コースでは枕状溶岩、丹沢の成り立ちについて説明した。帰りの林道コースでは紅葉が午後の陽ざしに照らされ大変綺麗だった。



（記・写真 牧石 稔⑭）

◆ 神奈川県森林協会様 令和5年度「森林ウォーク」

日 令和5年11月26日（日）10:00～14:00 晴れ

場 県立21世紀の森

参 43名（大人40 子供3）

県 神奈川県森林協会 内山様、岡田様、日高様、藤澤様
神奈川県森林再生課 栗林様、笹木様、里見様、種市様、南様

イ L 西岡 ⑭、杉崎⑩、上宮田⑪、石垣⑮、久次米⑯

早朝の雨に不安もよぎりましたが皆さまが集う頃には穏やかな晩秋の朝となりました。今回県内在住の7才から88才までの幅広い年齢層の方々に参加され、森林協会・内山様よりスケジュール・内山林道の説明を受けた後、5班に分かれ彩り豊かな林道へと散策を始めました。

さっそく「あの綺麗な黄色の葉は何？」とムクロジへの質問が出、実を拾ってのシャボン実験も行いました。「ドングリあった！」と子供達の元気な声も響きます。ウバユリの種子に息を吹きかけ、ハダカホオズキの赤い色、ノササゲの紫色を楽しみミツバウツギの果実に触れと秋ならではの自然に親しみ、40年生のスギ林を眺めながら成長の森に到着。

県職員の方々から「無花粉・少花粉スギとヒノキ」の解説を受け、成長が早く雑草にも負けない苗木を育てている事にとっても感心のご様子でした。



展望台では、雲の切れ間から富士山が姿を現し、皆歓声を上げる場面もありました。

昼食後、セントラル広場からさらに進み広く足柄平野や江の島の眺望を楽しんだ皆さまからは「来年も来たい」「1983年の開設以来40年ぶりに来たけれど、自然が残されたままでとても気持ち良く歩けました」等の声がありました。

(記・写真 石垣 桃栄⑮)

◆ 横浜市立釜利谷東小学校 自然観察

日 令和5年11月28日(火) 10:30~13:30 晴れ

場 県立七沢森林公園

参 先生8名、5年生64名、計72名

イ L西岡⑭、柏倉④、内野⑨、松本⑪、西出⑫、松石⑬、牧石⑭

交通渋滞で子供たちの到着が30分ほど遅れましたが、ほぼ予定通りの自然観察路を歩きました。天候にも恵まれ、子供たちは落葉のにおいをかいだり、種を飛ばしたり、綺麗に色付いたモミジの紅葉を楽しみながら、今、学習している「森林の働き」や「森林の整備」などについての話を聞いて、森林について知識を深めてくれたと思います。

まず、「であいの広場」で開会式を行った後、6班に分かれてスタートしました。広場ではカツラの落葉の甘い香りをかいだり、野外ステージに向かう石畳ではモミ



ジの種を飛ばしたり、ホオノキの大きな落葉でお面を作ったりして楽しみました。野外ステージでは水分補給の休憩を取りながら、森林の話に耳を傾けました。その後、時間の関係で「ながめの丘」には寄らず、「もみじ展望台」で横浜が見渡せる展望を楽しみ、たくさん落ちているドングリを拾いながら「尾根のさんぽ道」を辿って「ピクニック広場」に着いて昼食をとりました。午後は、「おおやま広場」で大山をバックに記念撮影をして、「森のかけはし」経由で「であいの広場」に戻り、閉会式を行ってお別れしました。

(記 西出 健一⑫、写真 西岡 一郎⑭)

◆ 日揮グループ様 水源保全活動

散策/癒やし・クリスマスリース作り

日 令和5年12月2日(土) 9:00~15:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 6名

イ L若林⑦、菊地①

軽く準備体操を行い林道コースへ出発します。お目当ての木の实がある場所を目指しつつ歩いていましたが、なんとお目当てのヤシヤブシの实が落ちていない!今年木の実が落ちるのが遅いようです。



ここで参加者様にも木の実がまだ樹上にあることを伝え、下ではなく少し上を見て歩きましょうと散策を再開。するとススキ、ウツギ、紅葉した蔓などを見つけることができました。

材料を集めて午後からはリース作りです。毎年参加していただいている方は手慣れた様子でリースを作っています。おうちの方から要望も受けている方もいらっしゃいました。



大きくすると吊るすのが大変というので厚みのないリースを試行錯誤。リースではなくスワッグ(吊るすタイプ)をお願いされた方は枝ぶりを見て工夫され、参加者様の創意工夫が発揮されて私自身も勉強になりました。



途中、新たなクラフト『かどぼく』なるものも爆誕し和気あいあいと楽しい活動となりました。

(記 若林 良子⑦、写真 笠原 かずみ⑭)

◆ 株式会社日本経済新聞社様 森林体験活動

日 令和5年12月3日(日) 10:00~15:00 晴れ

場 やどりき水源林

参 大人22名、子供10名

県 水源環境保全課 武田様、星様

イ L牧石⑭、杉崎⑩、真貝⑪、久次米⑯、野口⑰

午前は間伐、自然観察、午後はクラフト体験、自然観察の内容で活動を行った。

【間伐】参加者15名は3班に分かれ、用具倉庫前に移動し、用具装着を完了したのち後沢前まで林道を移動。やどりき沢を渡り平成19-10、11成長の



森に移動し、滑車、ロープを使用しカツラ、ホオノキ等、各班2本計6本の間伐を実施した。



【自然観察】午前、午後共にBコースの自然観察を実施した。

林道に設置されている森は水のふるさとの看板を前に、県内で利用されている水道水の説明を行ったのち用具倉庫まで林道を移動しBコースに入り、コースに設置



されている樹名板等を使い、ヒノキ、ミツマタ、クロモジ、シラキ、アブラチャン、ヤブムラサキ、ホオノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ミヤマシキミの説明を行った。最後にや

どりき水源林の杉の巨木を見学した。

【クラフト体験】コースター、サンタクロス、カスタネット、クリスマスリース作りを皆様楽しんで体験され、無事活動を終了した。



(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ アコム様 21世紀の森活動

- 日 令和5年12月3日(日) 10:00~12:00 晴れ
- 場 県立21世紀の森
- 参 17名
- 県 県水源環境保全課 黒田様、佐藤様
- イ L森本⑰、小林⑱、杉山⑲

アコム様の環境保全活動、SDGs活動として前回に引き続き枝打ち作業の体験(午前中のみ)をお手伝いしました。12月に入り季節並みの寒さになりましたが、天候に恵まれ青空の元清々しく活動ができました。

アコム様到着前に、インストラクター3名で打ち合わせと現場確認を行い、作業内容と注意事項を共有しました。

アコム様到着後、アコム様のオリエンテーション。県担当者の挨拶、インストラクターリーダーによる活動内容と注意事項の説明、準備運動で体をほぐした後、班分けをして道具の準備を行いました。(県民参加の活動と違い、企業様は道具の準備を積極的にされるのですね)

道具の装着を確認して班ごとに本日の活動場所へ移動しました。移動の際は参加者と積極的に言葉を交わしお互いの距離を縮めるよう努めました。成長の森の全体が見えるところでは、成長の森について、植樹の年によっての成長の変化、植樹間隔や今後の手入れなどの説明をしました。また、移動中には他企業様が活動した枝打ち後の森を見ることができ、本日の作業終了後の様子(ゴール)を確認しました。

作業場所に到着後、班ごとに作業の説明と注意事項の確認を行い、参加者同士作業距離を確保しながら作業を始めました。作業対象木が少ないので、斜面のため特に足元に注意しながら丁寧な作業をお願いしました。参加者の皆さんはでっぱりやもじゃもじゃ(根元付近の幹に生えた杉の葉)を残さず、また樹皮を傷つけないように丁寧に進めていました。

作業の合間に、枝打ちの必要性や枝打ち後の変化、林内の環境や森林の涵養機能の話をして参加者の皆さまの作業がより充実できるよう努めました。作業終了後は皆さんで作業成果を確認し、森林整備の必要性を体感していただけたと思います。

作業場所から道具受取場までの帰り道も足元、防護柵ワイヤーなど注意を共有しながら、目の前に広がる足柄平野や水源林などの話をしながら戻りました。作業内容としては少々物足りなさを感じていましたが、参加者同士楽しく過ごしていたのがとてもよかったと思います。

参加者のご協力のおかげでヒヤリハットもなく安全に終了できました。個人的にはリーダー森本さん、



先輩小林さんの行動や説明を横目で確認しながらのインストラクター活動でした。お二人の指導の様子や環境保全に関心のある参加者とのやり取りから、自分自身しっかり知識と経験を積まなくてはと、反省と勉強の半日でした。

(記 杉山 宇史⑲、写真 森本 利弘⑲)

◆ 第14回 県民参加の森林づくり(間伐)

- 日 令和5年12月3日(日) 8:30~14:00 晴れ
- 場 南足柄市塚原(塚原水源林)
- 参 43名
- 財 倉野様、藤本様 看 青木様
- ス 南足柄市森林組合様
- イ L 齊藤⑳、佐藤㉑、相馬㉒、山崎㉓、齊藤㉔、鈴木㉕、石川㉖、西出㉗、古館㉘、岡村㉙、中澤靖㉚、三好㉛、三浦㉜、藤田㉝、中野㉞、高谷㉟

訪れる冬の気配を感じる風の冷たい晴れた日の作業となりました。バス5台に班ごとに乗車し作業地の塚原へ向かいます。塚原に到着後、作業の準備、オリエンテーション、ストレッチ体操をして、5班にわかれて作業地に向かいます。

各班内で、2~5名のグループに別れて、21年生のヒノキの間伐作業(伐倒、枝払い、玉切、整理)を実施し、全員で37本の間伐しました。ロープをかけ、受け口をつくり、追い口を切るという手順で伐倒します。倒した木は直径

10～15cmの細い木が多かったようですが、中には22cmの木もありました。間伐終了後には森の見通しがよくなっていることを確認しました。

日陰は寒かったですが、作業で体を動かすと寒さもどこへやら、事故やケガもなく、初めての方からベテランの方まで、みなさん安全に楽しく森林づくりの作業をしていただきました。



(記 藤田 あずさ^⑩、
写真 斉藤 夏葉^⑬、藤田 あずさ^⑩)

◆ 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～
「土の中の生き物ウォッチング」

日 令和5年12月8日(金) 9:45～11:10 晴れ
場 横浜市立上菅田特別支援学校
参 高等部9名、教師3名
イ L井出^①、足立^④、谷川^⑪、國弘^⑭、石垣^⑮

授業の対象は肢体不自由特別支援学校高等部の生徒で、普段は車いす生活を送っています。そのため下見の際、学校との打合せで、車いすでも対応できる授業内容にすることを申し合わせて授業計画を立てました。

<実施した授業の内容>

1. 土の採取：生徒を3班に分け(各班/生徒3名、インストラクター1名)、花壇(2か所)・ゴミ置き場横の3ヵ所で土を採取。作業はインストラクターが行い、生徒は生物がいそうな場所の説明を聞きながら作業を見守った。
2. 教室での生き物抽出：教室に採取した土を持ち帰り、シート上に広げて生き物を抽出。生徒は土をいじることがほとんどないので、最初はこわごわ作業を行っていたが、生き物が見つかるたびに興味津々に観察していた。
3. 解説：ワークシートの見つけた生き物欄にチェックを入れ、その場所の自然度の評価を行なった。さらにモニターを用いて土壌生物の役割について、SDGsを絡めて解説を行った。肢体に不自由のある生徒に対し、普段経験することのない、土をさわって土の中の生き物を探するという作業を通じて、生態系における土壌生物の役割について理解が深まったのではないかと思います。



後日学校から、生徒の感想文と質問を送ってもらいました。それに対する回答やメッセージを参加インストラクターで作成中です。授業では伝えきれ

なかった環境による生き物の違い、その他疑問点について、より深掘りして伝えたいと思います。

(記・写真 井出 恒夫^①)

◆ 県民参加の森林づくり活動(笹類の除伐)

日 令和5年12月9日(土) 9:00～12:30 晴れ
場 川崎市麻生区黒川(黒川海道特別緑地)
参 51名(参加者:大人50人、緑の大使:1人)
財 豊丸課長様、藤本様 看 青木様
ス 川崎市みどり多摩川協働推進課 飯田様、公園緑地協会 野牛様
イ L岡村^⑩、大橋^⑪、野村^⑭、小林^⑯、鈴木^⑰、松浦^⑱、久保^⑳、佐々木^㉑、伊東^㉒、大原^㉓、杉澤^㉔、池尻^㉕、小国^㉖、鈴木^㉗、文原^㉘、野口^㉙ 計16人

天気も良く、12月としては大変暖かく、作業により発汗する程の陽気であった。現場は遊歩道の脇の緩やかな斜面の広葉樹、竹林の混交樹林で、その下笹の除伐と、枯れた竹、広葉樹の整理を行った。作業前は何処から入るかという声が出る程のアズマネザサが繁茂した状態であったが、2時間半ほどの作業で、一面綺麗な竹林となった。



作業開始時の林床

緑の大使の吉村君を含め8人の初参加者がおり、インストラクターから丁寧な指導を受け、作業終了時には達成感で満ち溢れているようであった。熟練者は作業

慣れしており、黙々と進めていただき、短時間で広範囲の整備が完了した。一方で、遊歩道から遠い谷側から除伐を進めるのが基本ではないかとの提案もされ、インストラクターとして会の目的をしっかりと説明し、主旨に沿うようしっかりと説明できる態度が必要であることも勉強になった。また、作業が早い反面地際から除伐という基本が疎かになっているとの指摘もあり、気持ちよく作業いただいている参加者に対して、指導の徹底もインストラクターのすべき事であると痛感した。緑の大使の中学生も大変元気が良く、環境に対するモチベーションも高く作業に取り組んでいる姿を見て、大変気持ちの良いものであった。

除伐した材の整理も、基本通り行われており、作業完了時の林床の景観が見違えるように綺麗になっていた。作業中に発生する投棄ゴミの処分に関して議論になったが、土地管理者の意向にもよるため、財団メンバーと相談し、ケースバイケースで対応するとの指針が示された。



緑の大使挨拶

短時間で作業も密集していたが、けが人ゼロですべて完了した。

(記・写真 鈴木 秀明^{①⑦})

◆ アルバック様 森林再生プロジェクト
枝打ち&クリスマスリース作り

- 日 令和5年12月9日(土) 10:00~12:20 晴れ
- 場 県立21世紀の森
- 参 69名(大人53名, 子供16名)
- 県 神奈川県環境農政局緑政部 水源環境保全課
廣川主任技師、黒田様
- イ L内田^{①⑦}、菊地^①、柏倉^④、小笠原^⑤、河西^⑬、久次米^⑩、田島^⑩



今年3回目のアルバック様の活動は、午前中の約2時間、枝打ち班とクリスマスリース班に分かれて実施しました。インストラクターは9時に現地に到着。アルバック様の先発隊も到着していました。

快晴無風の好天に恵まれた県立21世紀の森は、赤、黄に色づいた広葉樹と緑の人工林のコントラストが美しく、青空と富士山を背景にした絶景で迎えてくれました。インストラクターは、軽い打ち合わせ後に枝打ちの現地(H26 成長の森^③)に移動し、作業手順を確認しました。10時までに参加者が(ほぼ)全員揃い、運動広場でオリエンテーションを終えると、リース作りで使用するスギの枝を調達すべく、枝打ち先発隊4名とインストラクター1名が出発しました。少し間を置いて枝打ち本隊が出発。3班体制で各班約8名、お子さんが1名お父さんと一緒に参加されました。先発隊が「収穫」したスギ枝はブルーシートに山盛りで、降ろすのに難儀しましたが、リース隊も協力して必要量を確保できました。

「何故枝打ちをするのか?」「安全で正確な枝打ちの方法」「無花粉スギ」の解説後、枝打ち作業をスタートしま

した。20年生の無花粉スギが対象で、一人2本程度でしたが、時間に余裕を持って丁寧に作業することができました。出来栄をチェックし、約40年前に21世紀の森が開設された理念をお話ししました。一時間弱の活動ではありましたが、参加者からは日常のストレスが発散でき、良いことをしたという満足感が得られたとのコメントをいただきました。



クリスマスリース作り班は、44名の参加があり3班体制で活動を行いました。リースに使うスギ枝を成長の森へ取りに行く道中、インストラクターが森林の役割など説明を行い、参加者はリースに飾る木の実や赤や黄色に色付いた葉を集めました。

作業は、青空の下 運動広場で行

いました。皆さん思い思いの大きさのリースを作成し、木の実やリボンで飾りつけをしました。インストラクターは、リース作り初挑戦の方々のお手伝いを行いました。作業後には、皆さん唯一無二の自作クリスマスリースを持って記念撮影を行いました。



好天に恵まれ、どちらの活動も気持ちよく行うことができましたと思います。

(記 河西 静夫^⑬、写真 内田 祐子^⑩、アルバック様)

会員から一言

「かながわ未来の森林づくり2024IN さがみはら」相模原市制70周年記念植樹祭が、5/26(日)「こもれびの森(相模原中央緑地)」にて開催されます(5/25(土)下見)。

私が統括リーダーを担当し、会員100名、インストラクター36名で450本の植樹を行います。多くのインストラクターの方に積極的に参加頂きます様、宜しくお願い致します。

小林 照夫^⑩

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

<https://www.forest-kanagawa.jp/4field.html>

「やどりき水源林ニュース」

年頭の3月号は冬芽特集です！

<https://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news210.pdf>



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子

Mail: muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

【別冊】小国 一男

Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

◇ **編集後記** ◇

★ PCで作成の紙確定申告、1時間もかからず、PCの指示に従い入力。15年前は計算方法を理解し電卓で計算、すぐにPC、ETAX。今はスマホでも。最近では理解もしないまま打ち込み結果、少ない還付金の大小で一喜一憂。(松本)

★ 令和元年11/30研修終了し即、広報部に参加、年が明け令和2年1/16、初めて神奈川県がコロナ感染と確認された。いわゆるコロナ禍の始まりで令和5年までインストラクター活動が制限される中、広報部では令和4年から別冊編集を担当させて頂きました。コロナ禍を背負ったことを運が悪いと捉えず、その役割を選ばれし世代と捉え、神奈川県森林インストラクターの潮目の変わる時代の一人として懸命に活動して参ります。(小林照)

★ 谷田貝先生の連載が完結し、今月号より、桜井先生の隔月連載『「やま」の色々』がスタートしました。先生は生態学、造林学、林学がご専門で、この連載ではそれらをベースに様々な視点から野生生物や生態について執筆して下さいと思います。皆様からのご意見、感想をお待ちしております。

3月号をもって笠原さんが配信係を卒業され、今月から小池さんが配信を担当されます。笠原さん5年間心温まるコメントと配信お疲れさまでした&ありがとうございました！！

また、今月をもって竹内さんが広報部を退かれます(;▽;)。これまでのご尽力に心から感謝いたします。そして、今号より小林さんが編集後記に登場します。よろしくお祈りいたします！！(河西)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替をご利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 河西 静夫

広報部： 黒川 敏史、松本 保、笠原 かずみ、長尾 晴子、
竹内 明彦、小林 照夫、小国 一男、小池 宗子

支援： 大原 正志、吉田 郁夫

やどりき水源林問合せ：

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

<https://ktm.or.jp/>

Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/>

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

2024年度 森林探訪

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

1. 真鶴半島のお林と磯を訪ねる

真鶴半島で「お林」と呼ばれる豊かな森、火山の溶岩によって形成された景観、海岸の動植物などを観察します。

開催日：2024年5月19日(日) 申込締切：5月11日

集合：JR真鶴駅改札口前 9:00 集合

解散：ケーブル真鶴バス停 14:00 頃

コース：JR真鶴駅バス停→中川一政美術館バス停

→真鶴岬・三ツ石海岸(☒)→ケーブル真鶴バス停(☒) (解散)

→バスで真鶴駅へ 高低差：90m



2. 日向薬師から日向山・七沢温泉へ



行基が開山したという日向薬師と周囲の寺林から続く、木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024年11月30日(土) 申込締切：11月22日

集合：小田急伊勢原駅改札前 8:30 集合

解散：七沢温泉入口バス停 15:30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停(☒)→日向薬師(☒)

→日向山山頂→亀石→七沢温泉→七沢温泉入口バス停(☒) (解散)

バスで本厚木駅へ 高低差：330m

3. 冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く

多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の時代に思いをはせるコースです。陽だまりで一足早い春を探してみましょう。

開催日：2025年1月26日(日) 申込締切：1月18日

集合：小田急多摩線はるひ野駅北口 10:00

解散：黒川駅 15:00 頃

コース：はるひ野駅(☒)→黒川谷ツ公園→はるひ野駅(☒)

→よこやまの道→黒川駅(☒) 高低差：100m



各イベントともに、

定員：50名(申込順) 参加費：1,500円(当日徴収)

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：認定NPO法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QRコードで

2) e-mail：kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町2-13-14 サンシャインビル604 へ往復はがきで

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡

